

SONY

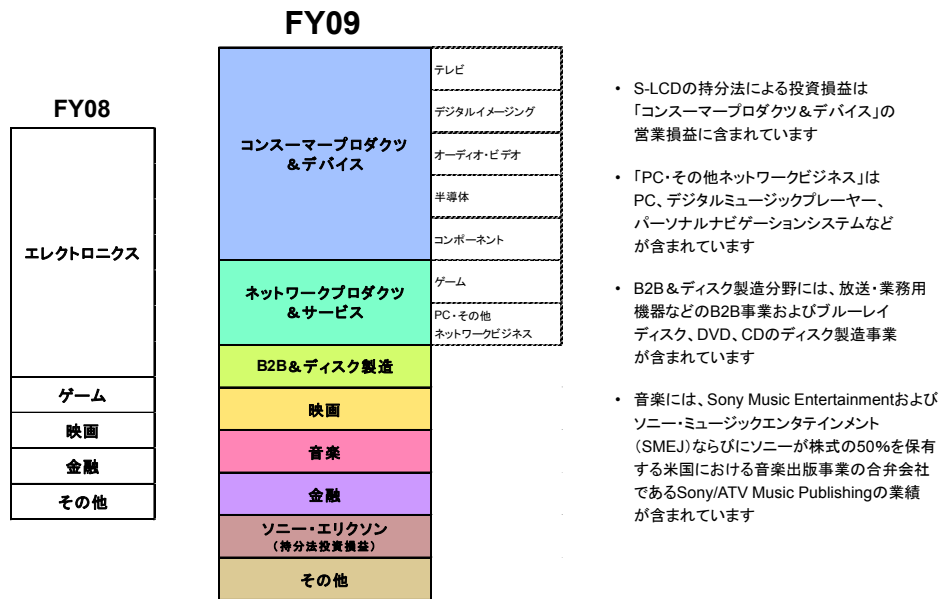
2009年度第1四半期 連結業績概要

(2009年6月30日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の仮定および判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直し改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済情勢、特に消費動向ならびに最近の金融市場および住宅市場における世界的な危機。(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上、生産コスト、または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート。(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム事業のプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力。(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力およびその時期。(5)ソニーが事業の構造改革・移行を成功させられること。(6)ソニーがハードウェア、ソフトウェアおよびコンテンツの融合戦略を成功させられること。インターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること。(7)ソニーが継続的に、研究開発に十分な資源を投入し、設備投資については正しく投資の優先順位をつけて行うことができること。(8)ソニーが製品品質を維持できること。(9)現状の国際資本市場において、構造改革および設備投資のために、十分な資金を調達する能力。(10)ソニーと他社との合併、協業、提携の成否。(11)係争中の法的手続きまたは行政手続きの結果。(12)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネジメント遂行の成否、および(13)(市場の変動またはボラティリティを含む)日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の収入および営業利益に与える悪影響などです。ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

Sony Corporation Investor Relations



	FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	19,790	15,999	-19.2%	-11%
営業利益	734	-257	-	-43%
税引前利益	629	-329	-	-
当社株主に帰属する四半期純利益	350	-371	-	-
普通株式1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益(希薄化後)	33.28 円	-36.96 円	-	-
<small>ソニーの経営陣は営業損益に加え、持分法による投資損益および構造改革費用による影響を除いた調整後営業損益を用いて業績を評価しています。この開示は、米国会計原則に則っていませんが、投資家の皆様にソニーの営業概況の現状および見通しを理解いただくための有益な情報を提供することによって、ソニーの営業損益に関する理解を深めていただくために表示しているものです。ソニーの経営陣はこの表示を営業状況の評価、比較分析、および費用削減が計画通り進捗しているかどうかの検証のために使用しています。</small>				
営業利益	734	-257	-	-
控除: 持分法による投資利益	22	-151	-	-
戻し入れ: 構造改革費用	6	339	+5,896.3%	-
上記調整後営業利益	718	233	-67.5%	-
為替変動による業績への影響額				
売上高および営業収入:	約 -1,630 億円	1 ドル 104 円		96 円
営業利益:	約 -680 億円	1 ユーロ 162 円		131 円
		その他通貨		17% 円高

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

FY09.1Q セグメント情報
SONY

(億円)

セグメント		FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
CPD	売上高	10,645	7,734	-27.3%	-18%
	営業利益	361	-20	-	+27%
NPS	売上高	3,944	2,468	-37.4%	-30%
	営業利益	46	-397	-	-
B2B & ディスク製造	売上高	1,383	991	-28.4%	-18%
	営業利益	89	-124	-	-
映画	売上高	1,596	1,700	+6.5%	+15%
	営業利益	-83	18	-	-
音楽	売上高	555	1,088	+96.1%	+106%
	営業利益	47	54	+15.6%	+23%
金融	金融ビジネス収入	1,830	2,276	+24.3%	-
	営業利益	306	482	+57.7%	-
ソニー・エリクソン**	持分法投資利益	6	-145	-	-
その他	売上高	855	622	-27.2%	-
	営業利益	28	6	-78.9%	-

* LCベース: 円と現地通貨との間を為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース
 ** ソニー・エリクソンはエリクソン社との間で、ソニーが50%の株式を保有する持分法適用会社です

FY09 連結業績見通し
SONY

(億円)

	FY08	FY09見通し	前年度比
売上高および営業収入	77,300	73,000	-6%
営業利益	-2,278	-1,100	-
税引前利益	-1,750	-1,400	-
当社株主に帰属する当期純利益	-989	-1,200	-
営業利益	-2,278	-1,100	-
控除: 持分法による投資利益	-251	-300	-
戻し入れ: 構造改革費用	754	1,100	+46%
上記調整後営業利益	-1,273	300	-
設備投資額	3,321	2,500	-25%
うち、半導体投資額	800	350	-56%
減価償却費*	4,054	3,700	-9%
研究開発費	4,973	4,800	-3%
為替レート	<u>FY08 実績レート</u>	<u>FY09 前提レート</u> (2Q以降)	
1ドル	99.5 円	93 円前後	
1ユーロ	142.0 円	130 円前後	

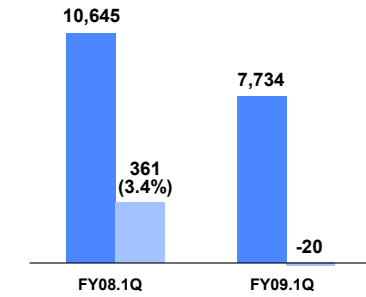
1Qの業績は、為替レートが想定に比べて円安になったことおよび日本の株式相場が上昇したことなどの好影響を受けたほか、CPD分野の業績が想定を上回りましたが、事業環境が引き続き多くの面で不透明であることを考慮し、2009年5月14日に発表した通期の見通しは変更しません。

* 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む。

売上高および営業利益

(億円)

FY09.1Q 業績



売上高: 27.3%減少 (外部顧客向け売上: 28.5%減少)

- ・減収: 為替による影響、世界的な景気後退にともなう事業環境の悪化、価格競争の激化

製品別:

- ・減収: 液晶テレビ「BRAVIA」、コンパクトデジタルカメラ「サイバースhots」、ビデオカメラ「ハンディカム」

営業利益: 20億円の損失を計上

- ・(-)要因: 減収による売上総利益の減少、為替
- ・(+)要因: 販売費・一般管理費の減少、原価率の改善

製品別(構造改革費用を除くベース):

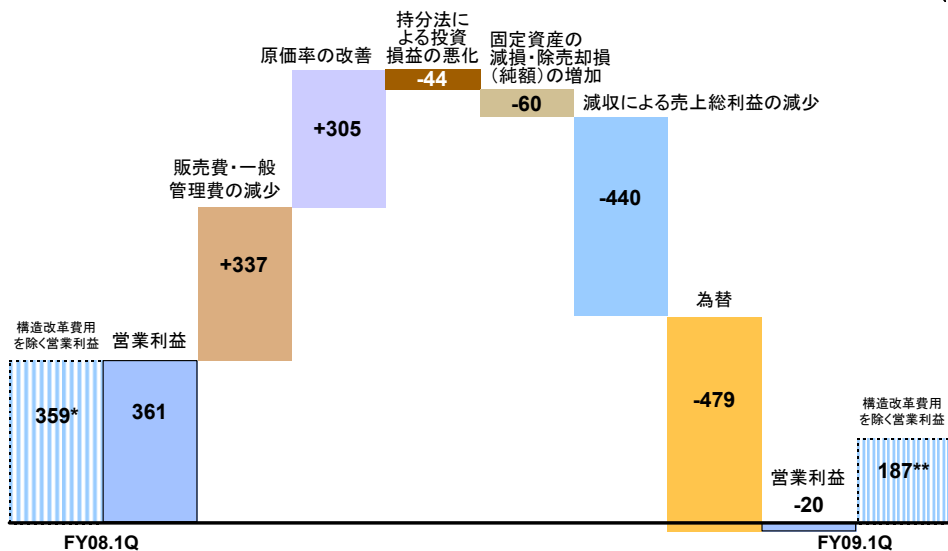
- ・減益: ビデオカメラ「ハンディカム」、イメージセンサー、コンパクトデジタルカメラ「サイバースhots」
- ・増益: 液晶テレビ「BRAVIA」

前年同期比 (LC)

売上高	-27.3%	-18%
営業利益	-	+27%

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

(億円)

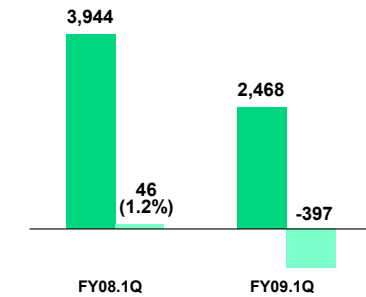


* FY08.1Q 構造改革費用: 2億円戻し入れ
 ** FY09.1Q 構造改革費用: 207億円

売上高および営業利益

(億円)

FY09.1Q 業績



前年同期比 (LC)

項目	前年同期比 (%)	LC (%)
売上高	-37.4%	-30%
営業利益	-	-

売上高: 37.4%減少

- ・ 主にゲーム、PC「VAIO」の減収により、分野全体で減収
- ・ ゲーム: PSP、PS3ハードウェアおよびソフトウェア全体の数量が減少したこと、為替の影響により減収
- ・ PC「VAIO」: 単価下落の影響、販売台数の減少、為替の影響により減収

営業利益: 397億円の損失を計上

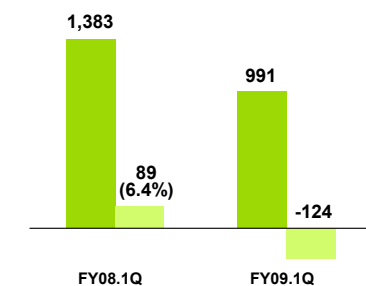
- ・ デジタルミュージックプレイヤー「ウォークマン®」の増益があったものの、ゲーム、PC「VAIO」などの減益により、分野全体で損失を計上
- ・ ゲーム: ソフトウェア全体およびPSPハードウェアの数量が減少したことにより減益
- ・ PC「VAIO」: 為替の影響、単価下落の影響、販売台数の減少により減益

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

売上高および営業利益

(億円)

FY09.1Q 業績



前年同期比 (LC)

項目	前年同期比 (%)	LC (%)
売上高	-28.4%	-18%
営業利益	-	-

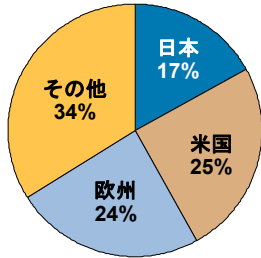
売上高: 28.4%減少

- ・ 主に放送・業務用機器およびディスク製造事業の減収による

営業利益: 124億円の損失を計上

- ・ 主に売上の減少にともない、放送・業務用機器およびディスク製造事業が減益となったことによる

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率



営業収入を除く
外部顧客に対する売上
10,180億円 -31% (LC -21%)

■ 日本: -24%

- 増収: デジタルミュージックプレイヤー「ウォークマン®」
- 減収: ゲーム、イメージセンサー、放送・業務用機器

■ 米国: -27% (LC -21%)

- 増収: 電子書籍端末「Reader」
- 減収: ゲーム、液晶テレビ「BRAVIA」、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」

■ 欧州: -40% (LC -23%)

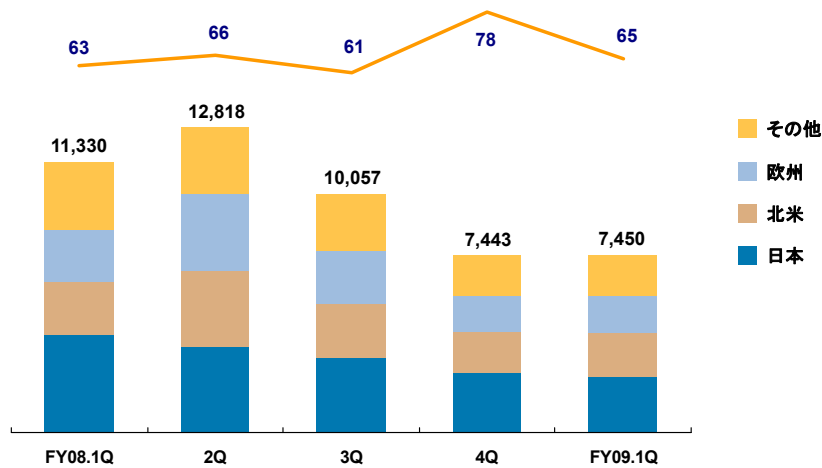
- 増収: 電子書籍端末「Reader」、イメージセンサー
- 減収: ゲーム、液晶テレビ「BRAVIA」、ビデオカメラ「ハンディカム®」

■ その他: -30% (LC -19%)

- 増収: イメージセンサー
- 減収: 液晶テレビ「BRAVIA」、ゲーム、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」、ビデオカメラ「ハンディカム®」

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC:現地通貨試算ベースの伸び率

(億円、日)

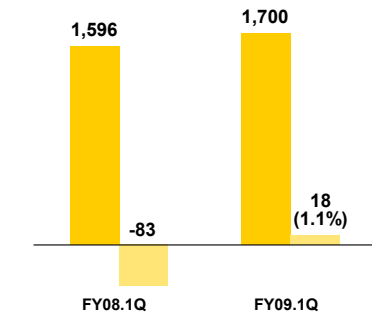


- 7,450億円(前年同期末比3,880億円の減少。2009年3月末比では、7億円の増加)

棒グラフ: 棚卸資産(億円単位)
折れ線グラフ: 棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産 ÷ 期中平均日次売上)

売上高および営業利益

(億円)



前年同期比 (US\$)

売上高	+6.5%	+15%
営業利益	-	-

FY09.1Q 業績

売上高: 6.5%増加、米ドルベースで15%増加

- 映画作品の売上およびテレビ番組の収入が増加
 - 「天使と悪魔」、「ターミネーター4」の劇場興行収入が貢献
 - 米国のネットワーク局向けおよびケーブルネットワーク向けのテレビ番組収入が増加
- インドにおけるIndian Premier League (IPL) クリケット競技大会の放映に関する広告収入が増加

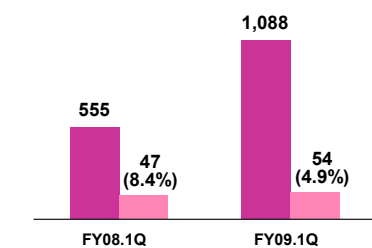
営業利益: 18億円の利益計上

- 米国のケーブルネットワーク会社に対するSPEの持分を一部売却したことによる売却益を計上(83億円)
- 米国において映画作品のテレビ向け売上増加が損益改善要因
- 一方、IPLの放映権料に関するコストの上昇が損益悪化要因

セグメント間取引を含む / US\$: SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および営業利益

(億円)



前年同期比 (LC)

売上高	+96.1%	+106%
営業利益	+15.6%	+23%

FY09.1Q 業績

売上高: 96.1%増加

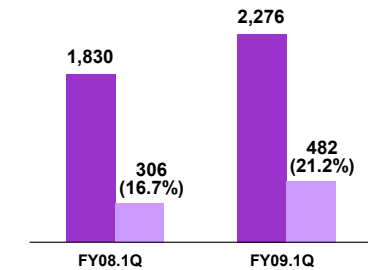
- 主にソニー・ミュージック・エンタテインメント(SME)の連結による
- SMEの売上: 612億円、米ドルベースでは19%の減収
(仮に連結子会社ではなかった前年同期との比較)
 - 為替の影響や世界的な景気後退によって全世界における音楽パッケージ市場の縮小が加速していることにより減収
 - ボブ・ディランの「トゥゲザー・スルー・ライフ」、Dave Matthews Bandの「Big Whiskey and the GrooGrux King」、キングス・オブ・レオンの「オンリー・バイ・ザ・ナイト」などのアルバムが売上に貢献
- SMEJは音楽パッケージ市場が引き続き縮小していることによるアルバム売上の減少などにより、減収
 - JUJU、遊助、平井堅の作品などが売上に貢献
- Sony/ATVは前年同期に著作権侵害にともなう賠償金請求に関する和解金を一時的に受領したことにより、減収

営業利益: 15.6%増加の54億円

- 主にSMEの連結により増益
- SMEは当四半期に2億円の営業損失を計上、前年同期はソニーBMGの持分50%の持分法による投資損失25億円を計上
- SMEJ および Sony/ATV はそれぞれ上述の要因により、減益

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

金融ビジネス収入および営業利益 (億円)



	前年同期比
金融ビジネス収入	+24.3%
営業利益	+57.7%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

FY09.1Q 業績

金融ビジネス収入: ソニー生命の増収により、24.3%増収

- ・ ソニー生命の収入: 29%増加の2,005億円

(+) 要因: 日本の株式相場の上昇にともなって特別勘定における運用益や、一般勘定における転換社債の評価益が増加、また一般勘定のその他の運用益が増加、保有契約高の堅調な推移により保険料収入が増加

営業利益: ソニー生命の営業利益の増加により、57.7%の増益

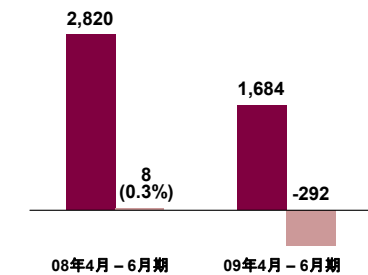
- ・ ソニー生命: 72%増加の475億円の利益を計上

(+) 要因: 一般勘定における転換社債の評価益およびその他の運用益増加

ソニー生命の業績

	FY08.1Q	FY09.1Q	前年同期比
収入 (億円)	1,552	2,005	+29.2%
営業利益 (億円)	276	475	+72.1%

売上高および税引前利益 (百万ユーロ)



	前年同期比
売上高	-40.0%
税引前利益	-

税引前利益下の (%) は税引前利益率

09年4月-6月期 業績

売上高:

- ・ 世界的な景気後退の影響、ローエンド製品に市場がシフトした中南米などにおいて販売台数が大幅に減少したことなどにより、前年同期比で40%減収
- ・ 販売台数は前年同期比 43%減少の1,380万台

税引前利益:

- ・ 減収および為替の影響などにより、2億9,200万ユーロの損失を計上

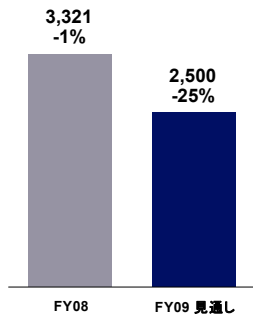
ソニーへの影響額: 持分法による投資損失145億円を計上

ソニー持分への影響額

	08/04 - 08/06	09/04 - 09/06	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	6	-219	-
ソニー持分への影響額(億円)	6	-145	-

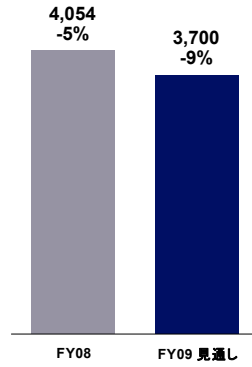
(億円)

設備投資額



FY09設備投資額見通しのうち、半導体向けは約350億円(FY08は約800億円)

減価償却費および償却費



FY09減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は2,700億円(FY08は2,937億円)

研究開発費

